

別紙

I 東洋ゴム工業(株)からの報告

1. 不正の全容と製品の安全性評価

1) 不正製品の全容

	出荷先企業	品 番 数	数量(個)
船 舶 用	9 社	6 3	16,642
鉄 道 用	1 1 社	9	28,256
他産業用	3 社	1 1	2,432
合 計	1 9 社 重複除く	8 3	47,330

- ・ 中間報告(10/30)から区分や集計のミスで数量等を訂正
- ・ 全ての出荷先、最終使用者に対し情報提供済み

2) 安全性評価

① 第三者機関による再現試験の結果

不正を行った品番数	再現試験結果で顧客の求める基準	
	規格値内	規格値外
8 3 品番	7 8 品番	5 品番

- ・ 別の第三者機関(JMAC)により再現性があることを検証済

表 顧客の求める基準(熱老化試験の規格値)から外れた製品

用途		不合格項目	規格値	実測値[三者機関] (社内検査値)
鉄道	落とし窓受ゴム	伸び	350%以上	350% (310%) ※
	レール間隔材	硬さ	常態 A50~A55	A54 (A56) ※
			老化 A52~A57	A57 (A59) ※
ボルスタアンカ緩衝ゴム (の一部製品)		伸び	400%以上	420% (380%) ※
その他産業	ディーゼルエンジン防振ゴム (品番:RA223600)	伸び	400%以上	380% (360%)
	ディーゼルエンジン防振ゴム (品番:RA383601)	伸び	400%以上	380% (360%)

- ※ 第三者機関の再現試験では規格値を満たしたが、社内の実測で規格値を満たさなかったため、規格外れ品と判断

② 規格外の5品番に対する東洋ゴム工業(株)の見解

- ・ 今回不正行為が行われていた検査は、経年的な性能の変化を評価する検査のみであり、通常行われる材料、製品検査は適正に行われていた
- ・ また、常時求められる性能（強度等）が規格内であることを確認しており、通常の使われ方、用途においては、現時点では一定程度の所要性能の保持が期待できる
- ・ 一方、経年的な性能の変化を評価する規格から外れていることから、正規の製品に比べて亀裂が入る時期が早まり性能が低下する可能性がある

3) お客様への対応

- ・ 今回の調査結果を顧客に説明
- ・ 代替品提供、点検、交換等を、真摯に、誠意をもって、迅速に対応できる体制をとる
- ・ 顧客の意向に沿った対応を進める

2. 原因の分析と再発防止策（全社的に実施）

免震ゴム時の再発防止策に対して、「継続して実施」するものに加え、「強化」するものや「新規に追加」するものを含め、緊急対策と徹底対策を実施

① 「緊急対策」（今年度中に完了）

外部専門機関による再監査や新品質保証体制の構築、不正のあった明石工場の抜本的改革等を実施

② 「徹底対策」（来年中に完了）

コンプライアンスの啓発強化、内部統制の強化、不正行為の早期探知体制の構築、社員教育等を実施